

Yukihiro Nomura

野村 幸弘

1961年生まれ。岐阜大学教養教育推進センター副センター長。同大学教育学部教授。専門は西洋美術史学。

シリーズ
第2回

教養でつなぐ

美術史からつながる世界

「岐阜大学での教養教育の中身の今」と「研究者同士の対話から垣間見える専門分野のつながり」をお伝えするため、教養の授業担当の先生に伺ったお話を、前号のアンゲリアより連載しています。第2回は、岐阜大学教養教育推進副センター長の野村幸弘先生にお話を伺いました。

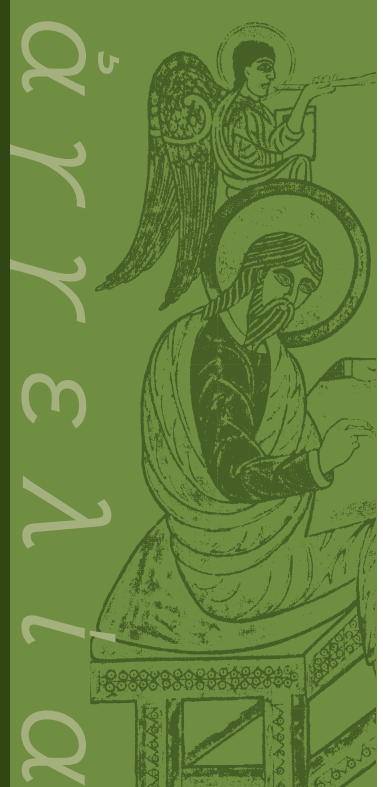
美術史と宇宙は天井でつながっている

▶先生は専門性と他分野とのつながりについて、どのようにお考えですか。

野村 いまやどの専門分野でも、細分化され尽くしているという印象があります。研究者が業績を積むためには、一つの限られた分野の中で研究しないと難しいですね。だから、学生の視野は大学、大学院と進学していくにつれて、どんどん狭くなっていきます。一方で、美術史研究でも、どんな分野でも、ほかの分野とかならずどこかで関連している。それは、研究すればするほどわかってきます。研究者として、ほかの分野のことを知らないで済ますことは、本当はできないのです。

▶先生のお部屋には、宇宙に関する本が何冊も置いてありますよね。それは教育用、もしくは趣味で置かれているのかと思っていましたが、研究用なのですか。

野村 宇宙には純粋な知的好奇心も持っていますが、それだけではありません。美術には、宇宙観をビジュアル表現してきた歴史があって、芸術家が宇宙をどのように認識していたかが、作品中に表れます。たとえば、建築の天井デザインは、当時の人々が宇宙をどう捉えていたか、ということと連動しています。ぼくらが今いるこの部屋の天井は、長方形のパネルが敷き詰められていますが、これはどこまで行っても同じ空間が続いているという均質空間の表れと捉えることができます。こうした宇宙観は、デカルトとそれに続くニュートンの時代から考え始められたことで、それ以前の天井のデザインには見られないものです。そして、アインシュタインの時代にわかった空間の歪みは、現代建築の、たとえば波打ったような歪んだ天井に反映しているとも考えられます。宇宙について考えているのは、物理学者だけではないんです。



美術でのコペルニクスの転回:見る人もまた主体である

▶芸術の分野では、作品の意味の解釈が特に重要なのではないかと思います、先生の授業でも、意味の解釈ができる学生を増やしたいという意図があるのではないのでしょうか。

野村 講義では、そればかり話している訳ではありませんが、欧米の研究者をはじめ、多くの専門家が、イコノロジー（図像解釈学）の手法を使って作品を読み解いていることは伝えていきます。そうすると、それまでは作品を「色が綺麗な」とか「上手いな」と、漫然としか見ていなかった学生たちが、「そんなことまでわかるのか」と、がぜん興味を持つようになるのです。多くの学生は、小学生の頃から、美術の時間には「作る」ことばかりしてきたので、美術とは「作る」ことだと考えています。学校の授業では、「作る」ことは教えても、作品の見方は教えてくれないのです。だから、作品の解釈について学ぶことは、学生にとって新鮮なのだと思います。

ただ、教養の授業では、解釈に深入りしないようにしています。美術の解釈にはそもそも答えがなく、その手法は複雑です。自然科学は客観性が高く合意形成が比較的スムーズでしょうが、美術の世界では、なかなかそこまでいきません。だから、学生には、専門家の間でも解釈が分かれること、専門家の解釈を相対化すると自分でも語れるようになること、専門家であるが故に何かに固執して、解釈を誤ることもあることなどを伝えていきます。

あともうひとつ、作品の解釈で面白いことがあります。私たちは一般に、作者が意図したものを理解しないとイケないと思う傾向がありますが、実は、作品に作者が意図していないものが表現されていることがあるのです。人間は歴史的な存在なので、完成から何十年も経ったあとに他の人が見ると、作者がこういう環境の中にいたから、こういうことを描いたんだとわかることがあります。でも、描いた作者本人は、それを意識していないんです。そうやって、本人が意図せざるところを、僕らが理解できることもすごく面白い。つまり、美術では作る人だけが主体なのではなく、見る人も主体なのだということ。これは、一種のコペルニクスの転回だと思います。作品を制作する人はもちろん必要なのですが、作品を見る人がいなければ、作品の価値は生み出されないのです。



作品のスケッチやモチーフの電球が並ぶ机

他分野との共通点:観察の仕方

野村 解釈の前の段階にある観察の重要性も伝えていきます。自然科学でも自然現象を観察して、物理法則を探したり、生物の生態を調べたりしますよね。観察は、多くの研究分野に共通する研究方法だと思うんです。人が普段なにげなく見ているものを、専門家が四六時中、一生涯かけて観察することによって研究になる。その観察の方法には、美術史研究と他の研究分野とで共通点があると思います。だから、専門外の学生が僕の授業を聞いても、研究面での様々なヒントを得られるのではないのでしょうか。

▶おっしゃる通りです。自然科学の分野でも観察は重要なのですが、学生がその重要性に気づいていないことが多いと言われています。実験の授業では、学生は実験器具を正確に操作できたか、正しい結果が出たかということばかり気にして、現象として何が起こったのかということへの意識が希薄になっているのではないかと思います。与えられたテーマについて、与えられた実験器具を使って、与えられた手順通りに淡々と実験を行っていく現行のクックブック形式の実験授業には、そのような問題があると考えられてきています。



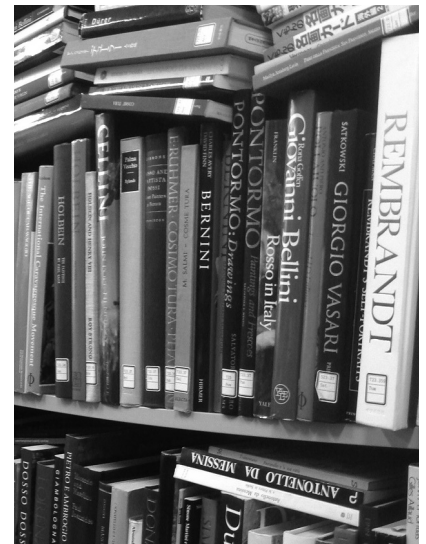
美術史の「美味しい」ところを中心に

▶先生は専門の授業と教養の授業で、どのように教え方を変えられていますか。

野村 全共の授業の受講者は、美術を専門にしている学生よりも、他学部の学生のほうが多いのですが、少なくとも小中学校で9年間の美術教育を受けていることは共通しています。そこでまず、教養の授業では、学生たちがこれまで受けてきた美術教育だけでは美術を学んだことになっていない、ということをお伝えたいのです。作品を作ることも大事だけれど、社会に出たときに皆が作品を作るわけではない。社会人として本当に身につけないといけないことは、作品を見る力だとぼくは考えています。

実は、学習指導要領の中でも、最近そのように言われ始めています。ただ、現場の先生はなかなか対応しきれていないのが現状です。先生自身が解釈の仕方を教えられてこなかったのが、仕方がないんですけど。だから、美術の先生になる学生たちを教える教育学部の授業では、徹底して、鑑賞の授業ができるように教えています。

一方、美術を専門としない学生には、美術史の「美味しい」ところを集めて話しています。たとえば、洞窟壁画から現代アートまでの通史や概説は、確かに必要な知識なのですが、もし教養の授業でそれを教えると、もちろん教え方にもよるのですが、学生は退屈に思うかもしれません。そうすると、これはもったいないですよ。ぼくは自分が美術を研究してきて、面白いと思ったことを、おもに授業で取りあげています。学生に迎合するわけではありませんが、そうすると、100人以上の学生が授業についてくるようになります。さらに、学生が「美味しい」と思ってくれば、その体験は次のステップへと進むきっかけになります。



特徴的な大判の洋書が並ぶ本棚

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|----|----|----|----|---|----|----|----|---|----|----|----|--|----|----|----|
| 人文科学 美術論—美術史— 野村幸弘 | 対象学生 | 授業時間 前・火・1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業のねらい 美術というと、すぐに「絵を描くこと」を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、ここでは、美術作品を徹底的に「見ること」を学びます。その意味で、この講義は「美術史学」という学問の入門的な性格をもっています。美術作品は、各個人が好き勝手に自由に見ていいのですが、しかし作品には「見方」があります。その「見方」を学ぶことで、美術作品がいかに多くのことを語りかけてくるかに気づくにちがいありません。美術作品は、たんなる趣味や楽しみだけでなく、じつは、宗教、思想、経済、社会状況、情緒・感情などと密接な関係にあり、人間が世界をいかに認識しているかを示しています。ですから、美術作品の「見方」を学ぶことは、人間や世界を知ることにつながるのです。そのような考えをもとに、次の授業計画に沿いながら、美術作品の面白さと重要性を理解できるように、平易に講義します。 | 授業計画 1 比較という方法 2 比較の効用 3 イコノロジーについて 4 建築の様式について 5 彫刻の様式について 6 絵画の様式について 7 時代様式について 8 地域の様式について 9 かたちの継承性 | 10 かたちの普遍性 11 遠近法について 12 陰影法について 13 聖から俗へ 14 芸術家と作品との関係 15 作品とその環境 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習到達目標 学習目標は次の3つです。 ① 授業では、美術作品を比較しながら考察する方法を学びますが、その鑑賞方法を身につけること。 ② できるだけ数多くの美術作品に触れ、それらに慣れ親しんで、今後も継続的に美術体験を行えるようになること。 ③ 美術作品、およびその制作者について情報を収集し、理解を深める方法を身につけること。 | 試験・成績評価 平常点・出席(50%)、レポート(50%)により、総合的に評価します。レポートは、授業内容をどれだけ理解しているかを評価しますが、そのさい、①美術作品を比較して考察する鑑賞方法ができていないか、②どれだけ美術作品を参照したか、③美術作品、芸術家についての情報を的確に収集し、理解を深める方法を身につけたか、の3点を重視します。 教科書・参考文献 教科書：なし 参考文献：授業時に指示します。それに加え、AIMS-Gifuの「文書コース」に毎回、資料を用意しますので、事前にプリントアウトして授業で活用してください。 履修条件 なし 科目の抽選は、1年次を優先する | <table border="1"> <tr> <td>進</td> <td>計画</td> <td>実行</td> <td>管理</td> </tr> <tr> <td>伝</td> <td>傾聴</td> <td>発信</td> <td>把握</td> </tr> <tr> <td>考</td> <td>課題</td> <td>創造</td> <td>論理</td> </tr> <tr> <td></td> <td>発見</td> <td>思考</td> <td>思考</td> </tr> </table> | 進 | 計画 | 実行 | 管理 | 伝 | 傾聴 | 発信 | 把握 | 考 | 課題 | 創造 | 論理 | | 発見 | 思考 | 思考 |
| 進 | 計画 | 実行 | 管理 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伝 | 傾聴 | 発信 | 把握 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 考 | 課題 | 創造 | 論理 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 発見 | 思考 | 思考 | | | | | | | | | | | | | | | |

野村先生の担当授業「美術史」のシラバス

アンゲリアでは皆さまからのご意見・ご感想をお待ちしております。
裏面のEメールアドレスまでお寄せください。

「SAの事前研修会」を開催

教養教育推進センターでは、SA(Student Assistant)制度を設けています。SAの業務は、全学共通教育科目の履修に関する相談に応じる学生相談員と、初年次セミナープログラムに組み込まれた「図書館ツアー」のコンダクターの業務が中心です。今年度は新しい試みとして、SAが学修支援者としての自覚をもち、学生に効果的な支援ができるよう事前研修会を行いました。学生たちは、学修支援に携わるSAの心得について、福士センター長より説明を受けました。その後、図書館設備の使用法、ツアーの案内方法について、司書の方より説明を受けました。

日時 2013年3月15日(金) 13:30~15:00

参加者 14名



「新任教員ワークショップ」を開催

シラバス作りを通じ、学習目標の立て方など授業の工夫、教養教育についての考えを共有することを目的として、ワークショップを開催しました。新しい教養授業を設計するワークの結果、「発音から学ぶEnglish」「学生による教科書開発：岐阜をキーワードに」という、2つの授業が発案されました。少人数での濃密な議論ができたためか、満足度は高い(平均4.8点)ものでした。自由記載欄には、「グループワークは実践的で参考になった。貴重な意見交換ができて良かった。」などの記述が見られました。昨年度のワークショップで発案された「津波と原発」の授業は、実現に向けて検討が始まっています。近頃の評価の主眼は、FDが教育改善にどのように結びついたか、ということに置かれつつありますので、今後の進展を期待しています。

日時 2013年4月24日(水) 13:00~16:00

講師 安田 淳一郎(教養教育推進センター)

場所 全学共通教育講義棟 31教室

対象 平成25年度 新任教員

参加者 14名(内、運営スタッフ5名)

プログラム

13:00 趣旨説明

13:05 レクチャー「岐阜大学の学生と教養教育」

13:25 レクチャー「シラバスの作り方」

13:45 ワーク「仮想的な新しい教養科目を作る」

15:10 総合討論



教養教育推進センタースタッフ(2013年4月現在)

センター長:福士 秀人 専門領域:獣医学(ウイルス学)

副センター長:野村 幸弘 専門領域:西洋美術史学

副センター長:洞澤 伸 専門領域:言語学(日本語、ドイツ語)

副センター長:安田 淳一郎 専門領域:科学教育学(物理)

岐阜大学教養教育推進センター

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

T E L : 058-293-2169

E-mail : gjea01008@jim.gifu-u.ac.jp